# ホオズキ管理情報（No. ４）

令和８年６月23日
京築普及指導センター
Ｊ Ａ 福 岡 京 築

## ○栽培管理・生育状況（６月16日現在）

・草丈70～105cm程度で、８～12段結実している状況。実とびは中位に１段程度見られる。複数段の実とびは少ない。
・害虫については５月下旬にオオタバコガによる実の食害を確認。年々、被害発生時期が早まっている。その他、一部でタバコノミハムシ、テントウムシダマシ、ハダニ、チャコホコリダニが継続して散見される。
・病害は軟腐病、斑点細菌病が散見程度。白絹病の発生は少ない。

## ★７月にすべき管理

１　除草及び排水対策：病害虫・湿害対策
２　エスレル処理：実の着色促進
３　病害虫防除　　：ヤガ類、ﾀﾞﾆ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類、斑点細菌病、軟腐病の予防

## １　除草及び排水対策

今後、長雨・大雨が予想される。除草及び排水対策を実施していない場合は、早急に畝溝の除草・残渣処理及び排水の状況確認と停滞水があれば整備を実施。
すでに排水対策を実施している場合も、再度、長時間水が溜まっている場所がないか確認し、溜まる場合は溝を切り直す、落水口の整備で排水を促す。

## ２　エスレル処理

（1）目的
実の着色促進

（2）処理方法

| | 散布時期 | 散布濃度 | 散布量 |
|---|---|---|---|
| １回目 | 7/10～15 | 500～700倍 | 50～70L/a |
| ２回目 | 1回目から7～10日後 | 800～1000倍 | 25～30L/a |

※処理濃度は上記基準を目安に各自の過去実績や品種、本年度の株の出来具体（葉色等）を考慮し調整する。
※２回散布する場合は、着色が進んでいない実に、集中して散布。

### ●　散布時期・時間帯等

・気　象：気温が低く、湿度が高い曇天時等が良い
（エスレルの乾燥を遅らせ、吸収量を多くするため）
・時間帯：早朝（４～６時）・遅い夕方（18～20時）
・植物体の状態：土壌が乾燥している場合は、事前にかん水を行い、十分吸水させておく。（エチレンの効果発現向上）

● **散布時のコツ**

・上部の茎葉・実（15cm程度）に薬剤がかからないように注意。
・通常の防除時よりも、噴霧器の噴圧を低めに設定する。
・実の表面全体にエスレルをかけるようにし、かけむらは禁物。
・散布は丁寧に行う。1aにつき30分（１本につき２～2.5秒）が目安。

● **散布時の注意点**

・日中の高温時の散布は効果が低い。（乾燥が早くエスレルの吸収量の低下）
・殺虫・殺菌剤と混用しない。（効果の低下）
・なお、ボルドー液等のアルカリ性薬剤は７～10日前後の近接散布もしない。
（効果の低下）

**＜ホオズキの着色向上対策展示ほ（Ｒ８）＞**

展着剤の加用及び種類の着色向上効果について
「アプローチＢＩ」（植物体内へのエスレル吸収促進）
「アビオンＥ」（植物表面へのエスレルの固着強化）

**３　病害虫防除の実施**

・梅雨時等の長雨時期は病害、梅雨明け以降は害虫被害が増えてくるので、定期的に防除を行う。
・病害は病徴がなくても病原菌は茎葉に付着している。梅雨時期の高温多湿条件で一斉に病害が進展するので天気予報を注視し、防除のタイミングを逸しないよう雨間をぬって防除を徹底する。
・ハダニ類はすでに発生している。梅雨明け前までにしっかり防除を行う。
オオタバコガ等のヤガ類は５月中旬から飛来・産卵が見られ、下旬には実の被害が発生している。今後、被害が急増するおそれがあるので特に注意。

【注意すべき病害虫】
病害：斑点細菌病、軟腐病
害虫：ヤガ類（オオタバコガ等）、ハダニ・ホコリダニ、アザミウマ類

※使用農薬は、Ｒ８年度防除暦を参照。
使用にあたっては農薬ラベルの確認を願います。

***暑い日が続きます。熱中症に注意し、こまめ水分補給、休憩を取りましょう！***